

## EU の地域産業政策ノート

齋藤 實 男

### 序

本ノートでは、ドイツのルール地方、旧産炭地 MEO (Mülheim an der Ruhr+Essen+Oberhausen) 地域の産業遺産化による活性化のための地域産業政策を、JETRO デュッセルドルフの清水幹彦氏のレポートに基づいて若干解説し、最後に INTEREG III a という越境地域活性化策 EUREGIO-MAAS-RHEIN の資料を提示してみたい。EUREGIO-MAAS-RHEIN の調査報告は、われわれの、科研費研究「国境を越える経済ガバナンス—EU 諸地域の先行例を中心とした比較研究 (H14-17年)<sup>(1)</sup>」の一つである。

MEO 地域のレポートについては、今回の、科研費の資料収集 (2004年1月3—13日) による。すなわち視察の行程は、アムステルダム→デュッセルドルフ→アーヘン→フランクフルト (4/Jan—10/Jan/2004) と独北西部を巡るものであった。今回は、暫定的報告に留め、その中に、国境の有機農業や旧産炭地の静脈産業等の調査を交え、1.MEO：旧産炭地と 2.グリーン (有機・環境・農業 CAP) 政策を中心に報告しておきたい。

### 序章 問題意識と課題

まず、今回の現場の雰囲気・文化を直観した調査によって、明確になった2004年度の調査課題と問題意識を述べておきたい。

#### 1. 2004年度の調査課題

- (1) MEO と INTERREG III, EUREGIO との関係はどうか？越境労働力・越境市場・越境資本は？
  - \* ジェトロ清水氏と情報交換、観光については、九州産業大学の千先生と連携。
  - \* 東京 EU 支部への問い合わせ。
- (2) .MEO, NRW 州と大牟田市・長崎県・熊本市・北九州市・川崎市との LL 事業？

技術・政策交流？ 静脈産業や WEEE (EU 家電リサイクル法2004年8月制定)との関係？ 独：容器包装リサイクル法の EU への平準化 (ジェット橋口氏)？ 矢敷トリニケンス, 川崎市角田氏, アーヘン大学3教授と情報交換。

(3) 独の仏—蘭—瑞との国境地域の有機農業運動, 有機農産物の UEDA-SKAL, EKO, BIO, DEMETER との農産物流通を通じた越境的関係, 及び CAP や EAGGF の援助？

\* 今後, 九州大学農学部の M・K 先生の EU 視察と連携したい。越境グリーンツーリズムについては, 九州産業大学の千先生と連携。

\* オランダハーグ農業省, ドイツデュッセルドルの NRW 農業省, ブラッセル EU 本部等での資料収集。

\* 現地 BIOLAND, IFOAM, DEMETER, UDEA, Agel など訪問。

UDEA <http://www.udea.com> +31 413 25670

## 2. 問題意識

(1) EU という人為的制度の市場原理に即した市民社会の制御, アメリカナイゼーション, グローバリゼーション阻止の可能性, 制度の EU 内高位平準化の可能性 (「未来労働現在化」)？

① 国境を越えた, 一国の環境政策が, EU 全体に, 高位平準化することによる, EU 全体への制度化は, 可能か？ 理性の勝利,

② この①に果たす行政の PR や多国籍企業のマーケティングと「消費」者のプロシューマリズム, 特に有機農業運動の果たす役割？ 地域の文化, meme の役割

③ EU が, この①の制度化によって, 「過去労働に基づく所有」を超えた「未来労働現在化」の市場を実現できるか？——A側：「循環経済・廃棄物法」第5条再利用, 「包装材命令 (容器包装リサイクル法)」のデポジット制度, 「バイオ廃棄物命令」, WEEE (2004年8月 EU 法), その他環境税の捉え方, B側：Duales System Deutschland, C側：割高な有機農産物を購入するときの, 健康管理, 子孫思い等の未来志向,

(2) .EU と AsU という地帯の, 市場と制度面, 組織と個人, 制度と文化からの地帯的比較<sup>(2)</sup>？

(3) EU の越境する有機農業運動・スローフード運動とグリーンプロシューマリズムと CAP？ EU 内の A-A-A-, B-B-B-, C-C-C-の連鎖 (A：Administration-B：

Business-C : Consumer) の①に果たす役割? 共通農業政策 CAP, EUREGIO。

- (4) EU 全体の環境関連規制法と各国の環境関連法令との整合性という観点から、上の1, 2, 3を考察。(例: オランダでたばこが4ユーロ, ドイツで3ユーロ)
- (5) MNC (多国籍企業) の EU 東漸運動 (低賃金・低地価・タックス/ポリューションヘイブン) と, マーケティングや労務管理の SRC (独善的尺度 [自己準拠集団枠組] Self Reference Criterion), Social Marketing, Green Marketing からのアプローチ。

以上, 本ノートの問題意識と課題を羅列した。次に, MEO 関連の資料を提示することにしたい。

## 第1章 MEO とグリーン

本章では, MEO とドイツの有機農業を若干, 紹介しておきたい。

### 第1節 MEO<sup>(3)</sup>

石炭と鉄鋼のルール工業地帯, 旧産炭地の, 経済活性化を目指して, NRW 州政府と MEO ネットが, 観光・環境・サービス経済化政策を実施, 産業構造転換対応 ([Shi・M-1] pp.189-201 [Shi・M-2] <Jet・N-1>)。

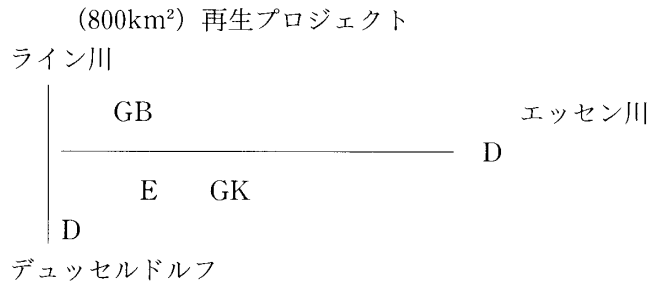
そのモデル事業が次の企画

1. 「IBA<sup>(4)</sup>エムシャーパーク企画」。(INTERREG? EUREGIO としての MEO???)  
<Jet・N-1>
2. 「CetrO (セントロー: 郊外大規模小売店ショッピングモール)」 [Shi・M-2]
3. LL (Local to Local) 事業 (「地域間産業交流」) を通じた国際ビジネスの推進 ([Shi・M-2])。

#### \* MEO 構想の成果

総付加価値220億ユーロ (1996年, 製造業32.0%, サービス業35.6%) ←168億ユーロ (1986年, 製造業47.0%, サービス業24.3%), ([Shi・M-2] 出所オリジナル「エッセン商工会議所データ2001」)。

1. IBA エムシャー (Emscher) パーク企画 (1989~1999年): エムシャー川流域



(別地図：清水作成参照)

## (1) 目的：①公園（自然），②産業クラスター

「自然環境の回復と持続，文化的魅力の創出」

## (2) 企画中枢：IBA エムシャーパーク社（NRW 州の第三セクター？ 1989～1999 年）

## (3) IBA エムシャーパーク社の役割

- ① 「再生プロジェクト全体の企画運営」（「目的1」との関係？ERDF カネ？？？）
- ② 「事業採択から完了までのコーディネート」（ガイドライン）
- ③ 「採択された事業のPR」（社の半数がPR担当）

## ②に関わるガイドライン

- ・「緑地帯の再生」
- ・「エムシャー川の水質改善」（排水システム改善）
- ・「公園の中の仕事場づくり」
- ・「居住環境の再生」
- ・「産業遺跡の保存と再利用」

このガイドラインに沿って，IBA エムシャーパーク社が，チェック・スクリーニングし，120事業を採択した。事業の具体的運営・組織構成は，その事業主体に任せた。…

- ・ EUREGIO, INTERREG II<sup>(5)</sup>のカネ，資金は，NRW 州資金とどうかみあわせれ，どの金額，どういう風に割り振られたか？ CIs ① Interreg (均衡)，② Leader (相互)，③ Equal (労働公平)，④ Urban (都市開発)？「EU から基金が出ております（清水氏の22日 email より）」
- ・ Public Comment の具体的内容は？
- ・ ライン川下流地域からの水資金的援助は？
- ・ IBA エムシャーパーク内及び近郊の，緑の中の職場，市民農園や有機農業の意義は？

## \* 120事業の具体例

- (a) エッセン (Essen) 市のツオルフェライン炭鉱  
産業遺跡としての保存 (上の②・) → PR → 2002年「世界文化遺産」  
——エッセン大学デザイン学科移転,  
——エムシャー川沿いの倉庫をレストランにした (産業遺跡観光)
- (b) ゲルゼンキルヘン (Gelsenkirchen) 市のソーラーバレイ = ゲルゼンキルヘンサイエンスパーク

## \* 緑の中の職場 &lt;住環境と労働環境の向上&gt;

- (・) IBA エムシャーパーク社が, ソーラー産業のクラスターを形成するように誘導。
- (・) 背景: ゲルゼンキルヘン市の①ガラス産業のノウハウ・技術力, ②高い失業率, ③質の高い労働力, ④ NRW 州のソーラー産業の育成  
→→→ シェル・ソーラー・ドイツ社の太陽電池工場建設, 出荷 (デュッセルドルフ駅前に販売店)。

販売支援? : (1) ソーラーパネル付き戸建て住宅販売

(2) ソーラー電気使用の冷房用「湯ポンプシステム」の開発,  
販売

- (c) グラードベック市のイノベーションセンター

2. 「CetrO (セントロー: 郊外大規模小売店ショッピングモール)」 [Shi・M-2] —— 今後, 齋藤実男が調査。特に EUREGIO との関係?
3. LL (Local to Local) 事業 (「地域間産業交流」) を通じた国際ビジネスの推進 ([Shi・M-2])。

事例: 大牟田市 —— エッセン市 (企業トリニケンス等)

矢敷トリニケンス (ハイテク廃棄物処理技術, SONY の産業廃棄物を長崎県西彼杵郡で処理) トリニケンスへのアーヘン工科大学廃棄物処理工学の技術流入。

<http://www.yashiki.co.jp/>      [kazuo@yashiki.co.jp](mailto:kazuo@yashiki.co.jp)

本社 〒852-8156 (株)ヤシキトリニケンス

長崎市 赤迫

時津事業所 (収集保管) 西彼杵郡時津町久留里郷

琴海事業所 (中間・最終処理) 西彼杵郡琴海町戸根郷

大村事業所 (中間処理) 大村市富ノ原

長崎県——MEO(松嶋研究所)

## 第2節 グリーン(有機・環境・農業CAP)政策

・CAP(Common Agricultural Policy)——75年指令

目的5bとの関係,

問題意識：①グローバルイゼーションとコミュニティ・環境・食糧自給，②EUの政策と各国・各地域の政策との整合性，③グリーンツーリズム・有機農業運動(交付金)・クライアントとの関係，④EU内の国境を，越える有機農産物の流通の実態と，③との関係。

EUが，補償金の25%負担(財政の連帯責任)，農村コミュニティ尊重・デカップリング(直接支払制所得保障・農産物過剰阻止)・農業の多面的機能(景観・環境)を重視して，EU内市場原理効率主義に対抗。

目的：①農業継続，②所得維持，③コミュニティの過疎化防止，④景観・環境保全  
仏・スイスとの国境の条件不利地域(75年指令)

ESA(Environmentally Sensitive Area)——85年環境保全地域への援助・税負担制度

Cross Compliance「環境要因を充たした農業者のみに農業保護を受ける資格を与え(る)」([Sod・O-1] p.152)「過剰生産と環境破壊の防止」

BSE, FMD以来の，環境保全政策とあいまったEUの有機農業促進との関係から，Cross Complianceを捉える。

なだらかな谷間，小さな小川，牧場，林檎畑(5,000m<sup>2</sup>)，杏畑，SCHLACHTHOF，パセリ，数種の野菜，ミツバチの巣箱，田園交響楽が聞こえてきそう。有機農場の牛馬は，穏やかで人なつこい。

小学校1年くらいの男の子，30代後半くらいの夫婦。訪問時，主人は，山の畑に薪の切り出しに行き，留守，夫人は，馬やの掃除中，話し込んでいると，大窓から馬が顔を出してきた。

25ha(所有地) 25ha(借地) 収入：肉牛・林檎・ラズベリー100m<sup>2</sup>・ブラックベリー100m<sup>2</sup>・レッドクローズ20m<sup>2</sup>・苺・販売所，百姓百品で全て自作し販売しているわけではなく，アーヘン近郊の有機卸に出向いて仕入れて，販売。有機野菜と有機加工食品と・販売所，林檎・蜂蜜・乗馬(馬数頭)・肉牛19頭・兎(肉用)，鶏は見かけなかったが糞が，薪の上に落ちていた。

大きなコンポスト堆肥場，隣家は不在，農業を止め，転職。全国的傾向。

肉牛19頭：牧草で，飼料を完全に100%自給，アーヘン近郊で解体処理加工し，その有機

肉を、農場内販売店で即売、デメターのカーペンターさんの奥さん

オランダアムステルダム：スーパー Albert Heijn 価格調査した。

98年にPB有機(AH BIOLOGISCH)導入。オランダ農業自然管理水産省が、「2010年までに10%を有機農業に」の目標を、「有機農業に関する政策(2000年7月)」で掲げた(寺地理 [Jet・S-1] p.19)。Natuurwinkel(ナツールビンケル)：卸 Udea から仕入れ。

独の消費者保護食糧農業林業省は、「2005年までに10%を有機農業に」の目標を掲げた(池田篤夫 [Jet・S-1] p.16)。独の有機農産物生産者7,464戸(全体の1.74%)、耕地面積38万3,572 ha(全体の2.4%, Agol, 有機農業協同組合の2000年1月調査)。

以上、MEO地域の産業活性化策とドイツ有機農業についてのレポートを終え、次に若干、INTERREG III a : MAASRHEIN のほんの一端を紹介しておきたい。

## 第2章 MAASRHEIN ドイツ・オランダ・ベルギー (MAAS-RHEIN)

齋藤の課題は、EUにおける国境 INTERREG III a と EU 国境地域における農産物流通の調査を冒頭の問題意識から行うことにある。

本ノートは、第1に農産物、第2にオイレギオ MAAS-RHEIN の調査研究に関するものである。第1については、EU 国境地域の農産物の移出入(流通)・生産とそれらにどのようにオイレギオ・インターレグの農業分野支援が影響を及ぼし、これらが上のレベルのEU 共通農業政策とどのように関連し合っているか、それによってどのように地域住民のための健康・自然環境が保全されているかを明らかにするものである。

第2についての報告は、オイレギオ MAAS-RHEIN という、AMEL(Aachen-Maastricht-Eupen-Liege) 地域を結び、この地域を活性化するための11分野、つまり経済・文化・言語・観光・スポーツ・災害・青少年・教育・技術・健康・環境の11分野の相互交流を行う運動体の調査研究に関わる報告である。

それは、この AMEL 地域の国境を越えた歴史的な経済的市場形成・相互交流を紐解きながら、上の11分野の内実、Interreg3a(2000—2006年)の資金の流れと組織編成、産官学コラボレーションを調査し、国境を越えた地域形成、地域間交流、歴史と社会文化、国家とそれを超えた民衆交易、Local-Local の交流のガバナンスの在り方、その意義について、明らかにしようとするものである。

特に、地球環境問題や技術分野での産官学コラボレーション、交流の実態調査内容が、

どのように、日本と韓国・台湾・中国の国境地域、特に福岡市・北九州市—大連・上海—釜山等の「環黄海経済圏（小川雄平）」におけるそれらの今後の民際・地域際交流の活性化のためのヒント、その交流のガバナンスのヒントになりえるか、に力点を置いて報告したい。

例えば、技術分野の内の INTERREG III 3a（170万ユーロ、3カ年）というプログラムのライフサイエンス分野の協働計画（事務局とコーディネータはアーヘン AGIT）については、その目的は、バイオ製品の国際マーケティング展開と FDI（Foreign Direct Investment）を含む国外からの投資の誘発にあり、その参加機関は、300超企業+130超研究グループ+大学（アーヘン工科大学、マーストリヒト大学、リエージュ大学の TLO [Technology Licensing Organization]）+地域産業支援機関（オランダ LIOF+東ベルギー WFG+アーヘン AGIT+マーストリヒト市）+イニシアティブ（ライフテックアーヘンユーリッヒ、バイオリエージュ、リンブルフのグループ）等である。（[http://www.nrw.co.jp/nrw\\_news/nrwnewsno.8.htm](http://www.nrw.co.jp/nrw_news/nrwnewsno.8.htm) [2004/02/26] 資料提供：東京 NRW 事務所八木橋氏 [2004/02/26]）

以上、本章については、調査し始めたばかりであり、本格的には、アーヘンを拠点にして、2005年1月3日—13日に現地調査を行いたい。

## 結

今回の、初めてのヨーロッパ訪問、資料収集・調査を通じて、特に MEO 地域の産業遺産、IBA 方式や鉄道沿線の産業廃棄物分別施設や中世の遺跡の現役道路への活用等を目の当たりに見て、ドイツの質実剛健・機能主義の精神の一端を体験的に知ることができた。この肌で感じ、ライブの臨場感から掴み、取材するものは、土着の体質文化=meme である。ほとんどのリアルタイムの活字的資料・バーチャル映像がインターネットで入手できる現在、この臨場感・皮膚感覚が研究者には、要求され、それをまた、教育現場で、ポダージュ・唾・匂い等発散し、演技しながら、学生に教える演出能力が、研究教育者には必要である。

## 注

- (1) 「国境を越える地域経済ガバナンス」の研究分担は、次のようなものである（速記：清水氏）。  
若森（関西大学）：EU 地域政策とクロス・ボーダー・ガバナンス



八木 (京大)：ソフトな安全保障と地域経済協力 (カリニングラードとマケドニア・ブルガリア・セルビア・トライアングル)

長尾 (名古屋大学)：フランス・イギリス間 INTERREG

住沢 (日本女子大)：ドイツ・ポーランド・チェコの三角地域 (帯) の経済ガバナンス

田中宏 (立命館大)：カルパチア・ユーロリージョン

ユイス (立命館大)：スペインにおける地域経済ガバナンス

丹沢 (中央大)：ドイツにおける地域経済ガバナンス

齋藤 (九州産業大)：ドイツ・オランダ・ベルギー (MAAS-RHEEIN) 国境 INTERREG 3a

長岡 (同志社女子大)：スウェーデンにおける地域経済ガバナンス

篠田 (立命館大)：スウェーデン・デンマーク間地域経済ガバナンス

マルチノ (羽衣国際大)：ドイツ・オランダ国境地域の EUREGIO

清水 (岡山大)：フランス・ベルギー国境地域における INERREG の役割

正木 (金沢大)：EU とアフリカ北部間との地域経済ガバナンス

山本 (徳島文理大)：トルコにおける地域経済ガバナンス—ギリシャ国境との INTERREG

課題

グローバル・レベル、リージョン・レベル、ローカル・レベルの三層を考慮して、下記の諸分野が EU における地域経済ガバナンスの進展とどのように関わっているのか、検討する。

- (1) 安全保障：八木
  - (2) 金融・財政：清水
  - (3) 投資・貿易：正木
  - (4) 人的移動：田中，篠田，若森
  - (5) 文化・教育・社会生活：山本，廣田
  - (6) 環境：長尾，長岡
  - (7) 中小企業：丹沢，マルチノ
  - (8) 農産物：齋藤
- (2) ここで、地帯とは、経済社会ブロックを指し、地域とは、ある国内部のローカルなエリアを指すこととしておきたい。現実的に、アジア地帯の環境保全を考えると、グローバルイゼーションを背景に、いま課題となっている AsU の自由貿易志向をいかに阻止するか、各国内地域の多面的機能・百姓百品の農業をいかに保護するか、が肝要になる。ちょうど、50年来準備されてきた EU が、農業保護を実現しつつ歩みつつあるように。

そこで、この EU 統合と ASU 統合の相違点を、浜矩子氏の指摘 (2003年 5月29日講演) に沿って、概観しておきたい。

つまり、EU の統合は、EU：政治主導—計画的—水平から垂直、アジア：経済主導—深化・なし崩し—垂直から水平 (雁行形態+リープフロッギング)、政治・計画・水平 (1：5 <GDP/人の格差> →垂直・<基督>) ASU (ASian Union <AU は African Union>)：経済・なし崩し・垂直 (1：50 <ミューンマー：日本の GDP/人の格差>) →水平 [浜矩子]・<基・回・仏・ヒン・道・儒・神・シャ・多>)、環境保全活動の高位平準化・エコデザインの普及 (エコテク素材/機能美/芸術性/空間配置等)・一種の

図表2-1 EU 統合と ASU 統合の相違点 [浜矩子]

	牽引力	進捗	国家間格差	アイデンティティ<文化/宗教>
EU	政治	計画	水平→垂直	基督教
ASU	経済	なし崩し	垂直→水平	基/回/仏/ヒン/道/儒/神/シャ/多神教

浜矩子氏の指摘を齋藤が総括。

EU (European Union) ASU (ASian Union) AU : African Union

文明化作用による Power Distance(権力格差)解消 (妥協のための垂直的主奴の力関係・水平的利害関係の一致)などの国際的なエリア・地帯の相違を配慮しなければならない。このような相違について、経営面でも、日とEUにも、日本3高 (p.37販売管理費, 粗利益率, 在庫回転) 欧米3低 (相原修), 顧客側許容価値の相違など配慮すべきである。

- (3)<sup>MEO</sup> MEOの調査・資料収集については、JETRO DUSSELDORF 清水幹彦氏の全面的協力に負う。感謝したい。MEO: Mulheim an der Ruhr + Essen + Oberhausen

MEO地域: 378k m<sup>2</sup> (M91km<sup>2</sup> + E210km<sup>2</sup> + O77km<sup>2</sup>), 人口99万7,000人 (1999年, M17万6,000人 + E59万9,000人 + O22万2,000人) cf.ルール地域480万人, NRW州1,800万人, 独8,220万人。

MEO-NET: MEO3市の経商技術のネットワーク。経商技術: 「経済振興機関, 商工会議所, ZENIT(技術イノベーションセンター)およびECOS社からなるネットワーク」 ([Shi・M-1] pp.196)

- (4) IBA (イバ): Internationale BauAusstellung (国際建築展)

IBA方式とは「ある地域全体を国際建築展というイベントに見立て、イベント終了後は建築物をそのまま利用する街づくりの手法」 <Jet・N-1>

「表 Interregの発展過程」 ([Sen・S-1] p.)

- (5) INTERREG III (2000-2006): ①均衡発展, ②経済社会統合, 重点は、辺境や新加盟の東欧国境の①②。予算48.8億 ECU。

INTERREG III A (Cross Border Cooperation) 「隣接地域間の越境協力, 共通の開発戦略」

(予算49億 ECUの50-80%) 「現在41のプロジェクトが進行中 \*<sup>(2)</sup>」

INTERREG III B (Transnational Cooperation) 「国, 地方, 地域の関係機関間の協力」バナナ地域のような統合。(予算の14-44%)

INTERREG III C (Interregional Cooperation) 「情報交換ネットワーク, 地域開発の効率性向上」(予算の6%)

INTERREG II (1994-1999): 経済発展・静かな観光 \*<sup>(2)</sup>を目指して, ①越境地域形成, ②生活の質向上。予算35億 ECU。

INTERREG II A (1994-1999) 「越境協力」

INTERREG II B (1994-1999) 「エネルギーネットワークの形成」

INTERREG II C (1997-1999) 「水資源の地域協力」

INTERREG II (1994-1999): 経済発展・静かな観光を目指して, ①越境地域形成, ②生活の質向上。予算35億 ECU。

INTERREG I (1990-1993): コミュニティづくりのための国境地域支援。予算7億 ECU ([Sen・S-1] p.207)。

「19 B, D, NL」 「22独+ルクセンブルク同一自然資源 [・都市, 農村開発: 社会, 文化, 教育, 観光施設のネットワーク, 経済開発: SMEs 支援 ・観光と文化向上: 公社機関の協力・労働マーケット創出と職業訓練・自然環境保護]」 「23 D+L」 「24仏+独同一文化遺産と言語 [・地域競争力の強化: 越境空間計画, 観光開発, 技術移転, SMEs 促進・越境雇用マーケット創出・自然資源の保護・社会, 文化統合]」 「25 独+仏+スイス地理的, 文化的アイデンティティの共有, 長い越境関係 [・人と機関の越境協力・持続可能な空間開発・経済統合と労働マーケット創出・観光と文化の促進]」 ——千氏ペーパー ([Sen・S-1] pp.207-217) 参照, ちなみに「観光(は)ヨーロッパのGNPの5.5%, 900万人の雇用」 ([Sen・S-1] p.209) ——

## 用語解説

CAP: Common Agricultural Policy 共通農業政策

CBR: Cross Border Region

CSFs : Community Support Frameworks 共同体援助フレームワーク  
 CIs : Community Initiatives 共同体イニシアティブ  
 CIP : Community Initiative Programme  
 DSD : Duales System Deutschland  
 EAGGF : European Agricultural Guidance and Guarantee Fund 欧州農業指導保証基金  
 ECSC : European Coal and Steel Community 欧州 (ヨーロッパ) 石炭鉄鋼共同体  
 EEC : European Economic Community 欧州経済共同体  
 EFTA : European Free Trade Agreement  
 EIB : European Investment Bank 欧州投資銀行  
 EMU : Economic and Monetary Union 経済通貨同盟  
 ERDF : European Regional Development Fund 欧州地域開発基金  
 ESA (Environmentally Sensitive Area)  
 ESF : European Socail Fund 欧州社会基金  
 EURATOM : 「欧州原子力共同体」  
 EUREGIO : 「地方団体の協力機関」又はプログラム。EU に10機関以上。1950年代に REGIO というプログラム始動。1958年には、次の独・蘭地域、つまりフランス帝国に編入されたことのある、ドイツ〈NRW (NordRhein-Westfaken) 州 + Niedersachsen 州〉 + オランダ〈ヘルダー-Gelderland 県 + Overijssel 県〉の100余りの地方団体の間で、協力機関が結成された。  
 FIG : 漁業支援のための財政支援  
 GGE : Gross Grant Equivalent  
 LL : Local to Local  
 IBA (イバ) : Internationale BauAusstellung  
 IDs : Industrial Districts  
 IMPs : Integrated Medieterranean Programmes 総合地中海計画  
 INTERRECT : 「国境を越えた協力に関する支援事業 ([Tsu・G-1] p.126)」  
 INTERREG : 「地域政策プログラム ([Sen・S-1] p.)」 「国境を越えた協力、超国家的協力  
 または地域間協力 ([Tsu・G-1] p.156)」  
 ISPA : 「交通インフラの整備と環境保護支援」  
 MEO : Mulheim an der Ruhr + Essen + Oberhausen  
 NGE : Net Grant Equivalent  
 NUTS : Nomenclature of Territorial Units for Statistics  
 OPs : Operational Programmes 実施プログラム  
 PHARE :  
 SAPARD : 農業近代化  
 SF : Structural Funds  
 SMEs (SMCs) : Small and Medium sized Enterprises (Corporations) 中小企業  
 SPDs :

### 参考文献

- [A<sub>be</sub>・S-1] 阿部成治『大型店とドイツのまちづくり』学芸出版社、2001年。  
 [E<sub>u</sub>・C-1] Commission of the Eiropean Communities, “European Governance : A White Paper.” COM(2001)428 final, Brussels, 25. July, 2001.  
 [F<sub>uk</sub>・M-1] 福士正博他『ヨーロッパの有機農業』家の光協会1992年。

- [J<sub>et</sub>・S-1] JETRO 『JETRO SENSOR ジェトロセンサー』2001年9月。
- <J<sub>et</sub>・N-1> JETRO 《ドイツ・ルール地方にみる都市再生：国際建築展（IBA）による魅力的な地域づくり》JETRO, 2002年（ビデオ&CDROM）。
- [S<sub>en</sub>・S-1] 千相哲「EUにおける国境地域開発と観光」『九州産業大学商経論叢』第44巻第3号, 2004年1月。
- [M<sub>ar</sub>・D-1] Martino D. “Internationalization of Industrial Districts and Governance in Northern Italy.” 11/January/2003 (Venue: Chuo Uni. Tokyo).
- [M<sub>ur</sub>・T-1] 村田武「EU 共通農業政策改革の直接補償支払：ドイツ・バーデン・ヴェルク州にみる」『九州大学農学部紀要』（美崎 追悼号）第309号, (1997年8月現地調査)。
- [M<sub>ur</sub>・T-2] 村田武『世界貿易と農業政策』ミネルヴァ書房, 1996年（第4章「1992年共通農業政策（CAP）」）。
- [M<sub>ag</sub>・N-1] 長岡延孝「2002年度北欧予備調査報告(2003年2月23日～3月6日)」2003年3月31日, 市ヶ谷・中央大学。
- [S<sub>hi</sub>・M-1] 清水幹彦 (JETRO DUSSELDORF) 「14. MEO 地域」日本貿易振興会投資交流部『海外の都市再生事例』日本貿易振興会, 2002年3月。
- [S<sub>hi</sub>・M-2] 清水幹彦 (JETRO DUSSELDORF, 日独ビジネス促進事業総括マネージャー) 「ドイツにおける地域経済の活性化」2004年1月8日（パワーポインター）。
- [S<sub>od</sub>・O-1] 祖田修『大地と人間』放送大学教育振興会, 1998年。
- [T<sub>su</sub>・G-1] 辻悟一『EUの地域政策』世界思想社, 2003年。
- [V<sub>erts</sub>・L-1] Les Verts, *Reconstruire l'espoir! En Vert et a gauche*, Editions de l'Aube, 2002 (フランス緑の党 [若森章孝/若森文子訳] 『緑の政策宣言』緑風出版, 2004年)。